

再発見され、また11世紀にはアメリカインディアン民族の生活範囲が北限界に達し、16世紀には南下した最限界に至ったという寒期と暖期の交替半周期が約5世紀という数字によく合っている。米大陸には世界爺(Sequoia)という長命な針葉樹があるそうであるが、これからもやはり同様な結果が期待されるかもしれない。屋久杉は現在毎年営林署の伐採で数が少くなりつつある。なんとかしてこの島に限って残された民族の財産を維持しておきたいものである。

この研究は荒川秀俊博士と共に進行中の台風波に関する考察の一環であって日米科学協力基金の援助による。調査にあたって御協力を賜った屋久島上屋久町役場岩川貞次、石田尾宗吉両氏、下屋久営林署小田敏雄、日高重治両氏、北海道大学農学部東三郎博士、九州大学農学

部熊谷才藏教授、塩谷勉博士又資料整理にあたった川勝紀美子嬢には厚く謝意を表わすものである。

### 参考文献

- 1) 高橋浩一郎 1965: 太陽活動と気象との関係(3), 災害科学研究会, 12月.
- 2) 高橋浩一郎 1962: 過去300年間のA級暴風雨, 天気, 第9巻第9号.
- 3) 高橋浩一郎 1967: ブリックナー周期の解析, 天気, Vol. 14, No. 2.
- 4) 真鍋大覚 1966: 玄界灘の海上風波, 西部造船会々報, 第32号.
- 5) 真鍋大覚 1966: 気象要素の限界値—屋久島の巨木の樹幹に包蔵される天災の歴史について—, 暖帯林, 8月号.

## 理事会便り

### 第14期 第17回 常任理事会議事録

日時 昭和43年2月19日(月) 15.30—19.00

場所 気象庁予報部長室

出席者 島山, 北岡, 大田, 神山, 根本, 桜庭, 小倉,  
岸保, 朝倉(順不同)

#### 議題

1. 予稿集 A5版をB5版にして、従来の2頁分を1頁に収容する。写真はのせない。500部印刷し、従来通りの定価にする。
2. 総会のシンポジウムについて 気研と打合せた結果「成層圏から中間圏」までのシンポジウムを開く。内容については小倉理事を中心に案をねる。
3. Dr. Scherhag の招待について本人が訪日を希望すれば気象協会の依頼により、気象学会がかわりに招待することにきまった。
4. 来年度の予算について 昨年1~12月までの決算書をつくり、それに基いて来年度予算の見直しをつける。また、各理事は予算増額とその理由を会計理事に提出する。  
理事長, 会計, 庶務理事が3月上旬に集まり、

予算内容を検討し、全国理事会にはかる。また事務局の分担をどのようにするかについても案を作る。

5. 学生会員制について 各地方支部、地方理事の意見は別紙の通り大体賛成に近いがいくつかの条件がある。討論した結果つぎのように原案をきめた。A会員を含め、学生であるものは、毎年4月1日までに在学証明書をそえて申告することによって学生会員になれる。その会費は通常会員のおよそ2/3とし、権利は制限しない。学生でない若い会員の奨励方法については、つぎの機会に考える。
6. 天気の投稿規定の変更 原案通りに認められ短報などが掲載できるようになった。
7. 科研費配分の運営についてのアンケート(学術会議) 討論した結果、学会の意見が通るような運営をするためには現状の方が改正案よりも有効であり、少くとも性急な結論をだす事に反対することにきまった。